

Title	企業再生にタイミングは重要か？
Sub Title	
Author	細川, 晃志郎(Hosokawa, Koushirou) 井上, 光太郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2008
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2008年度経営学 第2361号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2361">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002008-2361</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	井上光太郎研究会	学籍番号	80730925	氏名	細川 晃志郎
(論文題名)					
企業再生にタイミングは重要か？					
(内容の要旨)					
<p>本研究は、私的整理による企業再生に焦点を当て、企業業績悪化から企業再生着手までの期間が企業再生の成否に与える影響を検証し、私的整理の質を評価するものである。銀行による債権放棄は経済的機能があると一定の評価を得る一方で、私的整理によって救済された再生企業の業績向上は見られないとの指摘もある。企業側、債権者側双方において過度に倒産回避を行ってきた結果、企業再生への着手の遅れが企業価値を毀損させ、企業再生を困難なものにしてきた可能性がある。企業再生のタイミング及び抜本処理という点で、私的整理の質を評価行い効率的な企業再生のあり方を考察行うものである。</p> <p>具体的には、過去に行われてきた銀行による私的整理に焦点をあて、私的整理の成功・不成功を実証研究行うものである。私的整理実施企業の財務指標から業績悪化期を特定し、業績悪化期から私的整理着手までの期間が企業再生の成否に与える影響を分析している。また、私的整理着手時における抜本処理をリストラ度合いで評価行い、リストラの質による企業再生の成否に与える影響を分析している。さらに、効率的な企業再生実施を阻害する要因について、債権者間の調整による問題を取り上げ、メインバンクのシェア及び規模による影響を評価している。</p> <p>早期処理効果は発見できなかったが、リストラを指標とした抜本処理による企業再生成功への影響が確認された。また、メインバンクシェアが高まるほど企業再生が成功し、企業規模が大きくなると失敗することが確認された。</p> <p>銀行の体力に起因する非効率性から銀行主導による企業再生の限界や延命策ではなく抜本処理が再生の鍵となることが示された。</p>					